

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・良い要因は2点ある。1つは東京スカイツリーの開業に伴って、連休に旅行が増え、関連して旅行カバン関連商品の売上が前年同月比で2割増加している。もう1つは、ギフト関連で、内祝い、プライダル関連などパーソナルなギフトの売上が非常に伸びている。ただし、従来型の定番品より贈られる側が選べるギフトが伸びている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・商品の動きを見ていると、客の買物のうち特にパック商品の単価を抑えることによって動きがみられるところもあるので、それで景気もいいのではないと思う。
		コンビニ（店舗 管理）	来客数の動き	・来客数が前年を越えている日が複数日ある。前半、中盤、後半と満遍なく良い調子であった。
		乗用車販売店 （役員）	販売量の動き	・前年と比較するには無理があるが、エコカー補助金などにより車の販売状況は堅調に推移している。しかし、一過性の政策という側面もあり制度終了後の年度後半を推測すると大変厳しい状況も予測される。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・前半は非常に悪かったものの後半より動きがあり、売上は前年同月を若干下がるもののほぼ維持できた。ただ、4か月前に「今年は良くなる」と言っていた経営者は判断を修正し「良くない」とのことである。また、商店街の中の商店経営者も最悪と言っている。
		観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・4月、5月、6月と大型団体の受注があり、東日本大震災の影響があった前年同月はもちろんだが、前々年同月と比較しても宿泊客数は上回っている。
		都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門は台湾からの観光客の増加に伴い順調に推移している。また、レストラン、宴会部門も好調に推移している。
		旅行代理店（従 業員）	単価の動き	・メリハリ消費がさらに進んでおり、単価上昇が感じられる。
		通信会社（社 員）	販売量の動き	・スマートフォン需要が堅調に推移している。
		通信会社（営業 担当）	来客数の動き	・本来であれば販売数が減少するはずの月だが、5月末で有効期限を迎えるポイントやクーポン券の有効利用、また、他社から乗換えの大幅割引が5月末で終了することに伴い興味を持った客が多数来店している。
		美容室（経営 者）	単価の動き	・50歳代、60歳代のシニア層の商品購買意欲の活発さが感じられる。ここ3か月、前年より5%以上の伸びが続いている。
		住宅販売会社 （従業員）	来客数の動き	・展示場来場者数は回復基調にあり、増改築の引き合いも増加している。新築と合わせて緩やかな売上の回復が見込まれる。
	変わらない		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・太陽光発電に関心を持っている人が増え、問い合わせなどが多いと感じる。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・買物に対してより慎重になっている傾向がある。購買までの時間が多くかかっている。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半は例年並みの人出があったが、前半は寒かったことも影響したのか、人出、売上とも例年を下回ってしまった。デパートの催事も開店前から行列ができるほどの商品が今年は少ない。全体として、人出が少ないように思われる。
		一般小売店〔事 務用品〕（役 員）	販売量の動き	・今月は、全社的にはまずまずの数字が出たが、個々で分析すると、できている人とできていない人がはっきりしているため、実際、景気がいいのかわかるとは疑問符が付く。
		百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、来客数が減少傾向であるものの、購買率は低下していない。しばらくはこの傾向に変化はない。
	百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・最近イベントを開催しても、前年のように来客数は増えず、低迷状態が続いている。特に平日については極端に来客数が少ない状況となっている。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・前年同月より大変苦戦した5月であった。後半になってやっと気温も上昇し、夏商材に動きが出てきた。エコや節電への関心から、涼感素材や爽感素材、クール素材を用いた商品が例年より早く動いている。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・近隣に競合する食品スーパーが開店した店舗の来客数が減少している。それ以外の地区でも売上はほぼ前年並みになっている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・競争が激化する中、来客数は前年並で推移しているが、日持ちのする一般食品、雑貨類、また菓子、飲料、酒などの嗜好品の日々の買上率が前年より低く、特売時にはね上がる状況である。また、ディスカウント店へも一部買い回りしているなど節約傾向は強い。一方でちょっとぜいたくな商品の買上点数が上がっている点が救いである。
スーパー（統括）	単価の動き	・特に生鮮食品に関する単価の動きを前年と比較すると、若干1品単価が下がって、買上点数は微増しているという状況である。全体的には、1品単価が下がった分客単価が下がっているという状況と、食品、菓子、雑貨などのグロサリー系については、買上点数的には変わらない状況である。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・販売量に関してはほぼ前年並みである。来客数は微減、客単価は微増という状態が続いている。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・気温の急上昇の割には、飲料の売上が期待ほど伸びていない。ヒット商品があったデザート部門だけは前年を大きく上回っているが、他の部門の落ち込みをカバーしきれていないというのが現状である。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・5月に入り気候も安定したなかでの連休で、前半の出足は良かったが、後半にかけ伸びが少なく、1か月通しての売上の安定は難しい。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・売上を左右する要因は特別見当たらないが、相変わらずセールを強化して、前年の売上を確保している。
家電量販店（管理本部）	販売量の動き	・前年同様の販促活動により前年実績とほぼ同額の実績がここ数か月続いている。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・購入引き合い件数は変わらないが、予算や希望車種はますます低燃費で小型化の方向にあり、さらに補助金の対象か否かも大きな決め手になっている。当社では補助金対象車がない分苦戦している。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・いろいろなイベントを実施しても来客数が多くなれない。車の購入に対して慎重な様子が見え始める。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・新車購入補助金、エコカー減税効果もあり、前年同月比で車の販売量は170%である。ただし、前年は東日本大震災の影響で生産が大幅に落ち込んだ要因が大きく、前々年同月と比較すると販売量は85%である。個人消費の増加とは単純に言い切れない面がある。
その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・とにかく景気が良くならない。ずっと悪いままが続いている。また、消費増税の話が出ており、実際に消費税が上がるようなことでもなればダメージはかなり大きいと思われる。
その他専門店【医薬品】（総務担当）	単価の動き	・例年同様、制汗剤、飲料、虫除け関連商材の動きは活発となっているが、客単価は上がっておらず必要な物だけ購入するという傾向が続いている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの集客は、過去3年で最高である。後半はその反動もあり、特に主婦層のランチは低価格の企画商品を販売するも失速し、5月単月では例年並みの売上で終わった。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・連休明けの来客数が少ない。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・天気が良かったこどもの日は動物園などの集客施設にぎわい、概ねゴールデンウィーク期間中はファミリー客や友人などのグループ客の来店が多く好調だった。しかし、その後は前年割れが続き、結果的には前月と変わらない。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後、夏季商品の販売開始となったが、春季商品ほどには伸びが見られない。
タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークは、前年の自粛ムードから一変して、人出が多くにぎわったが、ほとんどがマイカーやバスなどで、タクシー利用は少なかった。休み明け以降は、休みに金を使ったためか、夜の町も静かで、全体としてはあまり良くなかった。

	通信会社（職員）	お客様の様子	・一部の富裕層を除き、中間層の動向が沈滞しているため、バツとしないのではないかと。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・前月やや持ち直し傾向にあった新規インターネット契約数は、今月に入り足踏み傾向にある。ただし、高速通信コースを求める客は多く、契約コースの切替により客単価は確実に上昇している。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客は動いてはいるが、契約には慎重で時間がかかる。また予算も厳しい状況の客が多い。
やや悪くなっている	百貨店（売場担当）	単価の動き	・来客数は前月比マイナス1.9%とそれほど悪くないが、客単価が同マイナス4.6%と大きく低下している。前月比較すると低下幅が大きい。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・衣料品を中心に、売上増加率は前年同月比10%に届かない。催事的イベントや企画などを強化したところについては、5%から10%の伸長があるものの、通常の営業ではなかなか前年同月実績をクリアするのは難しいという状況である。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価自体は前年同月を上回っているが、買上点数が伸びていない。特に一般食品、菓子、果物、日配関係で買上点数を落としている。この様子を見るとトータルのには、なかなか客単価が上がっていないと判断している。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前月や前々月に比べて、売上自体は上がっている。前年同月と比較して、4月や5月は2月や3月に比べて飛躍的に売上が上がって欲しい時期ではあるが、5月においてはそういった兆候がほとんど見られなかった。2月や3月よりは売上は良いが、例年の5月のような景気の良さが全く感じられなかった。当然、客の入りにもそこまで変化はないと思うが、売上数を見ると期待していた数値を極端に下回っているといった状況であった。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ここ4～5か月はほぼ堅調だったとらえている。節約疲れの息抜きだったと思われる。現状はやはり先行き不安が重くのしかかっている。
	衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・ハイプライスの商品は売れているが、中間層狙いのミドルプライスの商品、特にレディース向けの商品の売れが悪化傾向にある。低単価のものと高単価のもの二極化してきている。あまり良い感じは受けない。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・業界自体に良いニュースが無く、客の購買意欲も現実的になり購入も慎重になっている。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・映像商品が苦戦を強いられている。
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク商戦も例年以上に集客が減少しており、高額品を中心に買い控えが見られるが、全体単価は上がっているため売上規模としては客数減をカバーしている状況である。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年に東日本大震災があり、単純比較では総売上は前年同月比148%、宿泊人数は同143%、宿泊単価は同101%だった。前々年比較では総売上は前々年同月比104%、宿泊人数は同99%、消費単価は同105%と前々年同月を上回った。各年度も14名以下のグループや団体に大幅な増減はないが、15名以上の団体がまだ回復していない。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人、団体とも相談件数や受注件数の伸びが認められない。まだまだ旅行へは消費が向かっていない。安近短および間際予約も少なくなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後、売上の落ち込みが例年以上になっている。特に、夜の繁華街の落ち込みが激しい。
	その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・この時期にしては、見学者や体験者の希望も例年より少なく、それに伴い入会者数が一向に増えない。
悪くなっている	住関連専門店（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後の客の動きが非常に悪く、財布のひもが固くなった感じがする。客数も少なくなっている。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは前年並みに推移したものの、連休明けから団体客、個人客共に、東日本大震災のあった前年より来客数の動きが悪くなった。東京スカイツリーのオープンで首都圏方面や九州方面への旅行の流れが強いため、エリア内にくる客の動きが鈍くなっている。

企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・現状は、1月から立ち上がったスマートフォン関係の部品で、非常に忙しい思いをしている。1月から現在まで、非常に順調に続いており、夏過ぎぐらいまでは現在の状況が続くと予測している。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・軽油価格も若干下がり、車関係の荷動きが良くなっている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・医薬品関係や製造業において設備計画が少し出ている。そういった点で景気の上向きが感じられる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月連続で売上は前年同月比で上回っている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内市場については平年並みながら、為替や市況悪化により輸出関連が大苦戦し、前期を大きく下回り、受注難の状況が続いている。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・婦人衣料関係については先行き見通しが立たないが、非衣料関係はやや忙しい状況にある。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の受注量について、ここ3か月変わらない。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅着工件数は微増ではあるが増えていると聞いているが、当社の受注量はほとんど増えずに横ばい状態が続いている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞くと、景気の良し悪しを考えた場合、悪い方向に向かってしていると判断している方がわずかだが多い。また、個人の不動産取引に関する動きが少なくなっているという事も理由の1つである。
		司法書士	取引先の様子	・3月決算の会社や法人の事業報告、会計書類を見ると、売上は維持しているものの、年度末に集中していたり、売上に比べて利益が少なかったり、相当無理をしている感じがする。
	やや悪く なっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・販売量の伸長が鈍化しているとともに、原料の高騰が顕在化してきており、燃料費の上昇もあわせ、収益への影響が日増しに大きくなっている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内市場は、夏に向けて電力需要の逼迫により計画停電などが話題となり、設備投資が止まっている。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先である材料、部品などの供給メーカーの話では、全体的な動きは非常に悪く、ここへ来て2社ほど、雇用に関連してワークシェアリングを検討しているという話を聞いた。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・欧州の信用不安に端を発した円高、ユーロ安、ドル安で、地域の経済も製造業を中心に影響を避けられないといったことが考えられる。
悪く なっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4、5月に、県や市の公共工事がほとんど発注されておらず、発注されたわずかな物件をめくり、ダンプ受注が行われている。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・主に製造業の建設投資が縮小や先送り、工事発注量が減少し、受注価格の乱戦競争が再燃しており、採算面で工事受注が厳しさをさらに増してきた。	
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は微増ではあるが徐々に増えている。反面、派遣先の要求する人材は確保しにくく、マッチングしないケースも多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は、前年同月に比べ7%前後増えている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・派遣需要数は増えていない。数社に申し込んで優秀な人材を採用するため、求職者がいてもマッチングが難しい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と求人の数がほとんど変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で増加しており、新規求職者数は減少傾向にある。有効求人倍率も10か月連続して1倍を超えている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介求人の案件が少なく低迷している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・目立った変化がない。
	やや悪く なっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が2年ぶりに減少に転じた。製造業からの求人も減少している。

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---